

巻 頭 言

人間発達学部学部長
澁 澤 透

人間発達学部は地域に根ざし、人材育成と組織機能の両面で「人の育ち、地域の育ちを支援する」学部となることをめざして開設されました。開設以来、「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」の3つの附属機関や学部教育を通してさまざまな地域活動に取り組んできました。今年度は、「子育て支援センター」の活動の一つである子育て広場「みなみん」が子育てを支援する活動を評価されて、「未来みやぎ子育て県民運動推進協議会」より表彰を受けました。

保育士・教員養成を主たる目的とする本学部の8年間は、教員養成の在り方について盛んに議論された時期であり、文部科学省が教員養成に関する施策を積極的に講じた時期でもありました。本学部も開設の準備段階において、2006年中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」を踏まえて「実践的指導力」を高めるためにボランティア活動を奨励する単位認定科目「子育て支援地域活動」、それを認識面で支える「子どもと地域」「都城の文化と歴史」などの必修科目を設けました。また、福井大学の教職大学院教育に学びつつ「理論と実践の往還」を学士教育段階で切り拓く試みとして、近隣の公立小学校および私立幼稚園の協力を得て「連携協力学校園方式」というユニークな方式による教育実習の形態を構築しました。保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の養成課程に加えて平成25年からスタートした特別支援学校教諭養成課程についても、昨年、近隣の特別支援学校と協定を結び、相互交流の基盤を整備しました。

文部科学省は2015年中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」に基づいて、教職コアカリキュラムの設定による教員養成課程の改変を進めています。本学部は、従来の「教科又は教職に関する科目」に大学独自の科目を設定するなど、先進的なカリキュラム編成を行ってきましたが、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」との統合が真に教育的に有効な内容にすることは今後さらに検討を加えていくべき課題となっています。

いま本学部が力を入れようとしていることの一つは、高大連携です。すでに、数校の高校と協力関係にありますが、高校・大学双方の教育にとって有効な連携の在り方をさらに工夫していきたいと考えています。

また、「子どもの貧困」が社会問題となるなか、地域に根ざす教育は、福祉と教育の連携の課題に取り組む必要があります。これは福祉と教育の両領域を併せ持つ本学部の教育・研究の課題でもあります。

本学部は、当初の目的のもとに地域社会が求める新しい課題に応じて、4つの養成課程の有機的なつながりを強めて学部教育の改善に努めていきたいと思います。

本紀要には、8編の論文、3編の研究ノート、6編の報告が掲載されています。関係者の方々の忌憚のないご意見ご感想がいただければ幸いです。